

❖ 科目名 Course Title			
スポーツ社会学概論			
❖ 担当教員 Instructor			
前田 和司			
❖ 開講学期 Semester	前期	❖ 対象学年 Year	2～3
❖ 履修可能人数 Capacity	10	❖ 単位数 Number of Credits	2
❖ 授業形態 Type of Class			

❖ キーワード Key Words			
社会理論、スポーツの社会的課題			
❖ 授業の目的 Course Objectives			
<p>スポーツや身体運動を社会学的な観点から見ると、それは人と人が新しい関係をつくりあげる場、そしてこれまでの関係を深める場を提供してくれるものとして考えることができる。そのとき、スポーツや身体運動のあり方によって、人と人の関係が良好なものになったり、あるいは互いを抑圧するものになったりする。本講義では、こうしたスポーツや身体運動の性格を事例を示しつつ、社会学的観点から理解してもらおう。</p>			
❖ 授業概要 Course Description			
<p>スポーツ集団、組織の社会学的理解のみならず、より広汎な社会の中におけるスポーツの位置づけについて理解する。</p>			
❖ 到達目標 Course Goals			
<p>授業を通して、次の2つの資質・能力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツを社会学的に考察する場合の社会理論を理解し、説明することができる。 2. 社会理論によって、スポーツの個別的な社会事象を説明することができる。 			
❖ 授業計画 Course Schedule			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. スポーツをみるための社会理論 3. スポーツと社会化の理論 4. スポーツと社会化の個別事例 5. スポーツと逸脱行動の理論 6. スポーツと逸脱行動の個別事例 7. スポーツと暴力 8. スポーツとジェンダー 9. スポーツと人種・民族 10. スポーツと社会階層 11. スポーツと政治・経済 12. スポーツとメディア 13. 「生活論」アプローチ 14. 地域社会レベルのスポーツの個別事例 15. 期末試験 			
❖ 成績評価 Grading System			
<p>到達目標は2つあり、全ての項目で一定の成果を求める。いずれの到達目標1については、期末試験において、スポーツを社会学的に考察する場合の社会理論について論述させ、その理解度を評価する。また到達目標2については、期末試験において、社会理論を使ってスポーツの個別的な社会事象について論述させ、その理解度を評価する。原則として全ての時間の出席を求めるが、やむを得ない理由で欠席した場合は課題等についてすみやかに指示を受けること。部活動等の遠征によって出席できない場合は欠席扱いとする。期末試験を欠席すると代替措置が取れないので単位修得はきわめて難しくなる。</p>			
❖ テキスト Textbooks			
<p>J. コークリー／P. ドネリー著、前田他編訳『現代スポーツの社会学 課題と共生への道のり 増補版』南窓社。</p>			

❖ 参考書Reading List
随時紹介する。
❖ 準備学習Homework
随時課す
❖ オフィスアワーOffice Hour
木曜日5講目にC棟328スポーツ社会学研究室にいます。 来室できない場合はメールで受け付けます。maeta.kazushi@i.hokkyodai.ac.jp
❖ 連絡先 (E-mail) E-mail
maeta.kazushi@i.hokkyodai.ac.jp
❖ 質問・相談への対応方法Contact Information
メールで対応します。
❖ 履修上の注意Notes
❖ 備考Other Information

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外の人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。(例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。)

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。